

国鉄改革完遂！

当たり前の労働運動
を前進させよう！

JR東海労に
結集しよう！

J R
東海労

静岡

JR東海労働組合静岡地方本部

静岡市葵区黒金町 68

NTT 054-284-3608

FAX 054-283-6365

発行責任者 山本繁明

2012年 5月 7日 No. 6

5月5日ついに原発ゼロ！

今こそ原発に依存しない社会をめざす転機だ！

5月5日、北海道電力泊原発3号機が定期検査のため停止しました。これにより、全国の商業用原発50基がすべて止まりました。「ストレステスト」など、停止中の原発の再稼動を強行しようとしている政府の場当たり的な対応が招いた事態であり、福島第一原発事故を教訓とした原発に依存しない社会をつくる転機だといえます。

ストレステスト＝再稼動へのアリバイ

原発の「ストレステスト」は、機器を点検するものではなく、評価項目をコンピューター解析し、弱点や安全余裕が無くなる限界を調べるだけのものであり、評価の前提となっている設計上の想定は、東日本大震災以前のものです。

大飯原発の地元福井県が、福島第一原発事故の検証を踏まえ新たな国の対策が示されなければ再開の判断はできない、という姿勢を示しているのは当然のことなのです。野田政権は再稼動でその場しのぎすることなく、原発に頼らないエネルギー政策に転換し早急に推進を図るべきです。

浜岡原発は津波21mでも「安全」のまやかし

中部電力は、浜岡原発が南海トラフの地震で最大21メートルの津波が襲うと想定されたことに対し、影響評価報告書で「安全は確保できる」とし、原子力安全・保安院は中電の評価は妥当だと判断しました。しかし、これは原子炉が停止中の現状に限った評価なのです。浜岡原発の再稼動を許してはなりません。

共に声を上げていこう！

「運転40年を超えたら原則として廃炉」との方針を細野豪志原発事故担当相が発表して2週間もたないうちに、政府は「例外として60年運転が可能」との方針を公表しました。これでは、政府が本気でリスクの高い原発を減らしていく姿勢にあるとは思えません。福島第一原発の重大事故の教訓を今後どう活かそうとしているのか、まったく疑問です。私たちはこれまで以上に共に、脱原発・反原発の声を強くあげていこうではありませんか！